

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税があるから生きていける』

町田市立成瀬台中学校 3学年 児玉 結彩

税、と聞いて私は弟のことを思い出した。

私の弟は、アトピー性皮膚炎である。弟は毎月皮膚科に通っている。毎回袋いっぱい薬を持って帰って、毎日塗る。私の目線から見ると薬を塗るのも、家計的にも大変そうだった。薬はほしいからもらえるというのではなく、買うことによって手に入る。本来、今月の薬代は、八千六百八十円もかかる。しかし、健康保険制度を使い、また、東京都の子ども医療費助成制度を使うことで、一般的に小学生は二百円で買えるのだ。それは、税金のおかげである。余った約八千円で私の大好きなお米十キロも買うことだってできる。私の弟は税金によって相当助かっていることが分かる。

また、私の祖父は数年前に腎臓がんになった。そして、腎臓一つ、摘出手術を行った。がんの手術と聞いただけで、高額な費用がかかりそうだが、祖母の話によると、思っていたよりお金がかからなかったそうだ。これも税金のおかげである。

自分の身近な人たちだけでも、税金にとっても助けられている。私は、日本でどのくらいの医療費が税金によって賄われているのか調

べてみることにした。

二〇二二年の国民医療費（医療費から健康診断費などを抜いた額）は、約四十六兆七千億円であり、そのうちの約十七兆七千億円（約三十八%）も賄われている。また、患者負担は約五兆四千億円（約十二%）である。税金はとても大きな意味を成し遂げていると言ってもいいだろう。税金が無かったら、患者負担は大幅に増えてしまう。私は税金についてもっと知りたくなった。

世界規模で見ると、二人に一人がお医者さんに見てもらえない。日本では当たり前に病院に行って治療してもらったり、薬をもらったりして生きている。世界で日本の税率はそこまで上位ではない。しかしここまで国民が恩恵を受けている。きっと使い方が良いのだろう。ちなみに私の祖父は今も健在だ。

税金のお陰で急な病気や怪我の時も安心して病院にかかれる。なんて良い国なのだろう。素晴らしい制度だと思う。私もあなたもいつがんなどの急な病気になるのか分からない。そのためにお金を貯めるというのも限界がある。そう思うと、税金がどんどんありがたくなっていく。

税金はいたるところで私達に幸福をもたらしてくれている。それを知らずに、「減税」をずっと訴え続けるのは、間違いないのではないか。私達の生活をより豊かにしたいならば、まずは税金を払い、ありがたみを知っていこう。